

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菅生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

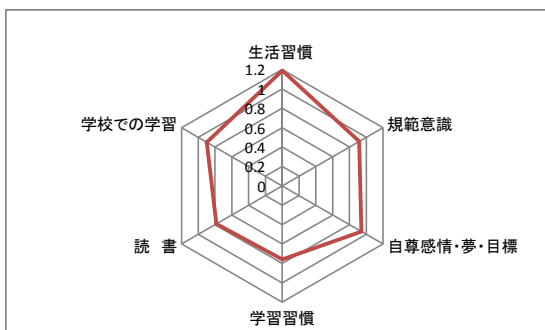
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回ったが、33問中21問の問題で、回答率が全国平均よりも高い、または同程度だった。 漢字を読む問題などで、基礎的な力の向上が見られた。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	適切な語句を選択する(白羽の矢が立つ)、辞書を活用する(「優美」の「美」の意味)、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いを直す(追ひし)等の問題の正答率が、全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を書く(ドクソウ的な考え)や、文字の形や大きさ、配列に注意して書く等の問題に、特に課題が残った。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回ったが、目的に応じて文章を要約する問題の平均正答率が、全国平均を上回った。 解答が選択式の問題よりも、短答式・記述式の問題の正答率が低かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「物語に書かれている事柄について図鑑の説明からわかることとして適切なものを選択する」問題の平均正答率が、全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	根拠を明確にして自分の考えを書く問題や、目的に応じて文章を要約する問題等の正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回ったが、正の数と負の数の加法の計算問題が、全国平均正答率より高く、基礎的な能力の定着が見られた。 関数の問題が、他の領域の問題より正答率が高かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	$-3 + (-7)$ を計算する問題が全国平均正答率より高かった。また、垂線の作図方法に関する問題の正答率は全国と同程度であった。	
	努力が必要な問題	一次関数の変域を求めたり、式に表わしたりする問題で特に平均正答率が低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回ったが、グラフの傾きを事象に即して解釈する問題の平均正答率が、全国と同程度であった。 資料活用問題が、他の領域の問題よりも平均正答率が低かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選ぶ問題が、全国平均正答率と同程度であった。	
	努力が必要な問題	与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現する問題が、特に全国平均正答率よりも低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
生活リズムの定着に関する質問に対し、肯定的な回答をした生徒は、全国平均75.2%を上回る89.4%であり、基本的な生活習慣の向上が見られた。学校の授業において、目標の確認や振り返る活動が行われていたと答えた生徒は、全国平均を上回っており、授業改善の取組の成果が見られる。家庭学習の計画性や実施時間、読書習慣の定着、自尊感情等については、今後も向上を目指した取組が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

生徒質問紙の結果から、授業において、目標を確認する活動やまとめ・振り返り活動ができていると判断できるので、それらが学習内容の定着により効果をもたらすよう授業改善の研修を行う。また学習の基盤である、生徒同士の人間関係を向上させる対人スキルアップの取組を、継続して行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の定着についてはこれまで行ってきた、学校便り等による励行、自学ノートや週末課題の徹底した点検と評価を継続して実施し、頑張っている生徒の取り組み方や、自学ノートを好例として示した。